

道徳科学習指導案

令和元年11月28日(木) 第5校時

場所 5年 組教室

指導者

授業の視点

ネットいじめを防ぐ方法を考える際に、教材文の「ぼくたち」を「自分」にして、理由(心)についても班や全体で意見交流させたことは、ねらいとする道徳的価値の理解を深めるために有効であったか。
--

1 主題名 ネットいじめをなくそう C-(13) 公正、公平、社会正義

2 教材名 「だれかをきずつける機械ではない」
(出典 『小学道徳5 はばたこう明日へ』教育出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目C-(13)「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。」に関連している。公正(正しいこと)、公平(私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接すること)にすることより、正義が生まれ、自己実現を図ることのできるよりよい集団や社会の形成につながる。

社会正義の実現を妨げるものに、人々の差別や偏見がある。人間は自分とは異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見などに対し、偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっていると言われる。いじめなどの問題も、このような人間の弱さが起因している場合が少なくない。

児童は、学年が上がるにつれて、学校生活の中で差別や偏見がいじめなどの問題につながることを理解していく。しかし、身近でいじめなどの問題が起きても、傍観的な立場に立ち、問題から目を背けることがあったり、いじめ問題がニュースで取り上げられても他人事として捉えたりする様子が見られ、社会正義の実現は容易でないことがうかがえる。そのことを児童が自覚し(人間理解)、まずは身近ないじめ問題を自分自身の問題として考え、差別や偏見に向き合い、不正な行為は許さず、公平で公正な態度で行動することの大切さを理解(道徳的価値の理解)することが大切であると考え。そして、本主題の大切さや実現するための思い(心)について話し合うことで多様な考えに触れること(他者理解)ができる。さらに、本学習が、より広い社会へと視野を広げ、社会的な差別や不公正さなどの問題にも関心をもち、自分で考える態度や実践意欲の育成につながることも期待している。

これらのことから、児童の生きていく社会が「誰もが自己実現を図り幸せな社会」になることを実現する一歩として「公正・公平・社会正義」について考えることは、学校生活およびその他の児童に関わる集団・社会をよりよいものにつながり、有意義であると考え。

(2) 児童の実態(男子15名 女子19名)

児童は、1学期に「友情・信頼」や「親切・思いやり」、2学期には「生命の尊さ」など、本学習の基盤となる内容項目について考えてきた。全体的にやさしい児童が多く、トラブルがあっても「いいよ。」と許す様子が見られる。児童への学校生活アンケート調査「いじめを見たことがあるか。」では、「ある」と答えた児童は1名だけであった。しかし、日常生活の中でちょっかいを出したり、ふざけた言葉を言ったりする児童、注意する児童、見ているが何もしない児童がいることから、大きないじめ問題が起きる要素がある。

本学習に関わるアンケート調査を行った。

○インターネットを使ったことがあるか？

- ・携帯電話・スマートフォン（16名）
- ・パソコン（5名）←学校以外
- ・タブレット（15名）
- ・通信ができるゲーム機（23名）

○ネットいじめはよいこと？悪いこと？どちらでもない？ 【全員が「悪いこと」】

〔主な理由〕

- ・いじめは悪いことだから（15名）
- ・相手がいやな気持ちになるから。（8名）
- ・いじめられている子は、いじめられていることを知らないかもしれない。（4名）
- ・ネットに書いたらずっと残るし、消しても書かれたほうは、ずっと心に残るから。（2名）
- ・いじめられた子が引きこもるなど、人生に響くから。
- ・ネットいじめをきっかけに自殺されたら困るから。
- ・個人情報特定されるから。

○いじめは防げると思うか？

【防げる 31名】〔主な理由〕

- ・一人一人がいじめはだめだと思えば（言えば）防げる。
- ・一人一人が助けたいという気持ちをもつ・注意する。
- ・相談すればよい。
- ・いじめはないという学校の例がある。
- ・いじめをしている人にいじめられている人の気持ちをわからせる。

【防げない 3名】〔主な理由〕

- ・見て見ぬふりをする人がいるから。
- ・口でいうことはできるけど、心で反省していないいじめっ子もいると思う。
- ・相手の心がまだひどいと無理だと思う。

ネットいじめを経験している児童はいないが、通信ができるゲーム機を使っている児童は多い。ネットいじめは「悪いこと」と理解して、「防げる」と考える児童が多いが、「防げない」と諦めている児童もいる。ネットいじめは「いじめ」であり、社会問題になっていることに触れて、児童が自分にも起こりうる問題として捉え、解決方法を考える必要がある。その際、なぜその解決方法がよいのかを考えさせて、解決方法の基となる公正・公平に対応する正義の心に気付かせていく。

(3) 教材について

本教材は、社会問題になっているネットいじめを取り上げている。ネットいじめは、相手がわからない、自分が知らないところで広まる、逃げ場がないなどの特徴がある。携帯電話の安全講習会に参加した「ぼく」となおとさんは、ネットいじめというものを知り、衝撃を受ける。そして、ネットいじめを防ぐ方法について考え始める。情報モラルへの意識の高まりからネット、いじめをなくす話し合いを学級に提案し、調べてきたことをもとに解決策を考えるのである。

本時の学習では、児童は「自分の学級だったら」と自我関与してネットいじめを防ぐ方法を考えることにより、いじめのない社会の実現のために正義ある姿で人と接する意識を高めることができると思う。また、本教材を扱った学習が、人権週間の活動と関連させた人権教育や社会科「情報化した社会とわたしたちの生活」の学習と関連させた情報モラル教育につなげていくことができると考える。

(4) 本教材と関連する内容項目、他の教科・活動

本時の学習で「ネットいじめを防ぐ方法と理由(心)」を話し合う中で、児童から本時のねらいに関わる内容項目も挙げられると予想される。指導者が関連する内容項目も踏まえて学習を進めることで「公正・公平・社会正義」への態度を育てることにつながれると考える。

【関連する内容項目】

- A 善悪の判断、自律、自由と責任 A 希望と勇気、努力と強い意志
B 親切、思いやり B 友情、信頼

特別の教科 道徳	他教科との関連	学校行事や特別活動との関連
○「モンゴメリーのバス キング牧師とバスボイコット 運動」	○学級活動(児童会からの提案) 「みんな○にしよう」 ○学級活動 「人権について考えよう」 DVD視聴・話し合い	○人権集中学習 11/19～12/9 ○人権講演会 12/3
○「誰かをきずつける機械で はない」(本時)	○社会「情報科した社会とわた たちの生活」 (12/4 情報モラル講習会)	○人権全校集会 12/5 ・学級活動で話し合った感想 を代表が発表。

4 指導の工夫

[全体を通して]

- ・児童が自分のこととして考えられるように、教材文を「ぼくたち」が「ネットいじめを防ぐ方法」をクラスのみなどと話し合いたいと先生に伝えるところまでを資料として提示する。
- ・本学習と関連させることにより情報モラルへの理解を深めることができると考えて、社会科の学習における情報モラル講習会を12月4日に設定する。

[導入では]

- ・ネットいじめが見えないところで行われるものであることを理解させるために、ネットいじめの画像を提示する。
- ・「いじめは悪いこと」と事前アンケートで全員が答えたことと、日本全体ではいじめ認知件数、が増えたことを提示して、いじめは悪いとわかっていながらいじめをする人がいることに気付かせて、本時のテーマへとつなげる。

[展開では]

- ・「ぼくたち」が、「ネットいじめを防ぐ方法」についてクラスのみなどと話し合いたいと提案した理由について考える際に、「みんなに提案しなくてもお母さんから教えてもらったからいいのでは？」と投げかけて、「ぼく」がみんなにも呼びかけて何としてでも防ぎたいという正義感に気付かせる。
- ・児童が友達の考えに共感したり、自分の考えを整理したりできるように、班での話し合いを取り入れる。その際、方法と思い(心)を交流できるように、付箋紙を活用して話し合わせる。(緑：方法 ピンク：思い)付箋紙の裏に記名をさせて、後に評価の参考資料として扱う。
- ・考えを共有して、自分の考えを深めたり広げたりするために、全体での話し合いを取り入れる。
- ・児童が話し合いの内容を理解できるように、「同じ」「似ている」「違う」「納得」「反対」という視点で自分の考えと比べながら参加するよう指示する。
- ・方法だけでなく、その方法を挙げるのはどのような思いがあるからかについても考えさせて、多様な思い(心)の違いに気付かせる。板書では、思い(心)を黄色で表し、視覚的にもわかりやすくする。
- ・交流の際は、ねらいとする道徳的価値に気付かせるために、問い返しを行う。

[終末では]

- ・現実の社会問題に向けて自分がどのように行動するとよいのか考えられるように、導入時に扱ったいじめ認知件数やパソコンや携帯電話での嫌がらせ件数が増加していることを想起させて、社会問題としてのネットいじめを防ぐことについての考えを書かせる。
- ・教材文中にある「その文章を本当に送ってよいか」とたずねる機能を考えたのが、14歳のトリーシャ・ブラブさんの話（児童と3歳しか変わらない少女が、ネットいじめの根絶に向けて実行し、93%の若者が投稿をとりやめた話）をして、正しいことをする気持ちへつなげるようにする。

5 人権教育とのかかわり

群馬県人権教育充実指針では、小学校における人権教育の目標として「人権の大切さについて理解するとともに、生命の尊さや他の人の大切さに気付き、より人間関係を築こうとする能力や態度を身に付ける。」と示している。いじめは、まさに人権を侵害していることであり、絶対に許されないことである。高学年の児童は、いじめは悪いことと認識しているが、人間の弱さである差別意識や偏見、善悪の判断の欠如などから、相手が嫌がる言動を行い、いじめ問題になることがある。特に、本教材で取り上げられているネットいじめは、児童が関心をもつ携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などでの相手が見えないコミュニケーションで起こるもので、根絶が容易ではない。そこで、本学習では、いじめは悪いことであると認識している児童に、いじめは人権問題であり防がなければならないことや、防ぐためには相手のことを考えて正しい行動をすることが大切であることに気付かせていく必要があると考える。これらは、群馬県人権教育充実指針に明記されている5つの「人権教育で育てたい能力・態度」に関連するものであるが、特に「判断力」「技能」「実践力」の育成につながるものとする。

6 本時の学習

- (1) ねらい 誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正・公平で正義ある姿で接する態度を育てる。
- (2) 準備 ホワイトボード（ネットいじめの特徴の拡大紙を掲示）、大型テレビ付箋紙（緑・赤） 付箋紙を貼る B4の紙
- (3) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	1. 主題を捉えて、自分の考えをもつ。 (1) ネットいじめが悪いことを確認して、防げないか考える。	○ ネットいじめはよいことですか。悪いことですか。 【悪いこと】 ・ いじめだから ・ 相手が傷つくから。 ○ いじめは増えている。なぜなくなるのですか？ ・ 楽しくなってしまうから。 ・ 相手のことを考えなくなってしまうから ○ みなさんは、この状況をどう思いますか？ ・ いじめをやめたほうがよい。	・ 事前に挙げられた「ネットいじめは悪いこと」という児童の意識と増加しているいじめ認知件数を提示して、主題への方向付けを図る。 ・ 心に関係していることに気付かせる。 ・ いじめをなくすべきであるという正義を押さえる。
	テーマ：ネットいじめを防ぐために大切なことは？ (2) テーマについて考える。		・ テーマを自分の問題として捉えられるように、今の自分の考えをもたせる。

<p>展開 30分</p>	<p>2. 資料を読み、話し合う。 (1) 携帯電話の安全講習会後のぼくたちは、どんなことを考えていたか話し合う。 (2) 「ネットいじめを防ぐ方法」について、心(理由)にも着目しながら考え、話し合う。</p>	<p>○携帯電話の安全講習会を聞いた帰り道、「ぼくたち」は、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめは恐ろしい。 ・相手がわからないなんて、防げないんじゃないかな。 ・どうすれば、防げるのかな。 <p>○「ぼくたち」は、「ネットいじめを防ぐ方法」について、クラスのみんなどの話合いを先生に提案しました。なぜ、提案をしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何とかして防ぎたいから。 ・いじめは許せないから。なくしたい。 <p>◎提案内容について、みなさんなら、どんなことを考えますか？そう考えるのは、どんな思いがあるからですか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が資料の場面をつかめるよう、教師が範読する。 ・ネットいじめの特徴にも触れ、ホワイトボードに掲示し、ネットいじめを防ぐことの難しさに共感させる。 ・ネットいじめの本当の怖さを知り、何とかして防がなければいけないと思う「ぼくたち」の正義感について話し合わせる。 ・導入でのいじめがなくならない背景には、心が関係していることに触れて、方法だけでなく、そう考える思いも考えさせて、心に着目させる。「自分なら」と考えさせることで、自我関与させる。 ・方法と思いを交流できるように、付箋紙に考えを書かせる。(緑：方法　ピンク：思い) ・児童が友達の考えに共感したり、自分の考えを整理したりできるように、班での話合いを取り入れる。その際、付箋紙を活用しながら、整理させる。 ・考えを共有して、自分の考えを深めたり広げたりするために、全体での話合いを取り入れる。 ・話合いでは、児童が考えを深めたり広げたりするために、「同じ」「似ている」「違う」「納得」「反対」という視点で自分の考えと比べながら参加するよう指示する。 ・「仲のよい友達がネットいじめをしていたらどうするか。」などの問い返しを行い、相手が誰でも正しい行動をする大切さに気付かせる。
<p>①個人→班</p>	<p>②全体</p>	<p><u>A ネットいじめの怖さを知らせる。</u> ♡多くの人を守りたい。 ♡怖いとやりたくない。</p> <p><u>B 言葉を考えてメールをする。</u> ♡相手を傷つけない。 ♡自分が誤解をされたくない。</p> <p><u>C 悪口を書いたり無視をしたりする友達がいたら注意する。</u> ♡自分がされたら嫌だ。悲しい。 ♡友達が悪い人になってほしくない。 ♡正しいことをしてほしい。</p> <p><u>D みんなでルールをつくる。</u> ♡ルールがあれば、誰でも安心して使える。 ♡間違いがあったときには、直せる。</p> <p><u>E 大人に見てもらおう。</u> ♡自分では変なことを書かないつもりでも、書いているときがあり、直したい。 ♡いじめになりそうだったら、すぐに相談したい。</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ・ A～Dは、本時のねらいにつながるものと考えて、児童から出ない場合は教師が提示する。
終末 10分	<p>3. 本時を振り返り、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○今、社会問題になっているネットいじめを防ぐことについて、あなたはどのように考えますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～だから、～をして防いでいくことが大切。 ・ネットいじめは悲しむ人がいるから防がなければいけないことはわかる。でも、自分1人では無理だと思う。他の人にも相談をしていく。 <p>○「ネットいじめをなくす方法」を發明した14歳の少女の話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・方法だけでなく思い（心）にも触れるように指示する。 ・困っている児童には、これからの生き方につなげることはどんなことかを書くよう助言する。 ・14歳少女の取組を紹介して、正しいことをする気持ちをもつことにつなげる。

7 評価


ネットいじめを防ぐために大切なことを考えることを通して、誰に対しても正しい行動をする意識を高めているか。（発言・付箋紙・ノート）

8 板書計画

導入：大型テレビで、ネットいじめ例、いじめ認知件数、パソコンや携帯電話での嫌がらせ件数を提示する。

悪いこと
ネットいじめを防ぐために大切なことは？

だれかをきずつける機械ではない
 ○安全講習会後の「ぼくたち」
 ・ネットいじめはおそろしい。
 ・どうすれば防げるのかな。



ネットいじめを防ぐ自分の考え
 (例)
 ・人をきずつけるような言葉が
 ・葉を考えてインターネットを使えば
 ・ネットいじめは悪いことだとわ
 ・防げないと思う。他の人にも相
 ・いであいくべきだと思う。

○「ネットいじめを防ぐには」みんなで話合い
自分なら・・・
A ネットいじめのこわさを知らせる
B 言葉を考えてメールをする。
C 悪口を書く人を注意する。（無視）
D みんなでルールをつくる。
E 大人に見てもらおう。

- ・多くの人を守りたい
- ・怖いとやりたくない。
- ・相手をきずつけたくない。
- ・自分がごかいをされたくない。
- ・言われたら自分が悲しい。
- ・相手に悪いことをしてほしくない。
- ・誰でも安心できる。
- ・まちがいがあったら直せる。
- ・自分がやってしまったら直したい。
- ・相談したい。

何とかして防ぎたい。
いじめをなくしたい。

太字は思い（心） 黄色チョークで板書